

分権改革と民主主義

—大都市制度と議会主義を考える—

神戸学院大学法学部准教授 南島和久

najima@law.kobegakuin.ac.jp

〔問題意識〕

現在ほど、日本の地方政治と民主主義が注目を集め、問われている時代はない。しかし、そこで問われているのは何か、一体何が問題なのかというと判然としない。

国では選挙制度改革や衆議院の定数是正が改革課題となっている。大阪や名古屋では現在、都構想が喧伝されたり、議員報酬や議員定数の削減が改革課題とされている。同様の動きは他の自治体にも波及している。

このような時代の流れをどのように読みとげばよいのか。政治学の立場から論じてみたい。

1. 地方分権改革の基礎知識

- (1) 1990年代初頭の課題
- (2) 地方分権改革のこれまでの展開

2. 道州制論と大都市の制度

- (1) 2つの地方分権論
- (2) 道州制と大都市制度

3. 議会制民主主義とは何か

- (1) 日本の地方議会と機関委任事務
- (2) 分権改革と議会制度改革
- (3) 首長主義との対立

4. 問われる「デモクラシー」

- (1) 大都市制度について
- (2) 議会改革について

【参考文献】江藤俊昭『自治体議会学』（ぎょうせい、2012年）／土山希美枝編著『「質問力」からはじめる自治体議会改革』（公人の友社、2012年）／栗原利美『東京都区制度の歴史と課題』（公人の友社、2012年）／砂原庸介『大阪』中央公論新社、2012年／『未完の分権改革—霞が関官僚と格闘した1300日』（岩波書店、1999年）／『分権改革と政治改革—自分史として』（公人の友社、2006年）／『地方分権改革の道筋—自由度の拡大と所掌事務の拡大（地方自治土曜講座ブックレット）』（公人の友社、2007年）／『地方分権改革』（東京大学出版会、2007年）／西尾勝・新藤宗幸『いま、なぜ地方分権なのか』（実務教育出版、2007年）／松下圭一『日本の自治・分権』（岩波書店、1996年）／『成熟と洗練』（公人の友社、2012年）／廣瀬克哉『「議員力」のススメ』（ぎょうせい、2010年）